

令和元年8月8日

令和元年

第1回教育委員会臨時会会議録

大田区産業プラザ

令和元年8月8日（木曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
後 藤 貴美子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	

2 出席職員（21名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	杉 山 良 樹
教育施設担当課長	鈴 木 龍 一
副参事（教育地域力担当）	元 木 重 成
副参事（施設調整担当）	荒 井 昭 二
学務課長	政 木 純 也
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩 崎 政 弘
副参事	早 川 隆 之
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪
指導課 統括指導主事	塩 野 恵
指導課 統括指導主事	木 下 健 太 郎
指導課 統括指導主事	志 賀 克 哉
指導課 指導主事	古 川 大 輔
指導課 指導主事	中 治 謙 一
指導課 指導主事	今 井 洋 登
指導課 指導主事	山 崎 大 志
指導課 指導主事	秋 山 亮
指導課 指導主事	折 田 和 宇
指導課 指導主事	南 博 幸

3 日程

日程第1 令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択について

日程第2 令和2年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

日程第3 議案審議

第26号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく令和2年度使用特別支援学級教科用図書採択について

第27号議案 令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択について

第28号議案 令和2年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

~~~~~

(午後 2 時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和元年第 1 回教育委員会臨時会を開催いたします。

本日は、小学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第14条により、教科書採択関係職員も出席しております。

本日は傍聴希望者がおります。

大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しております。

まず、会議録署名委員に三留委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は昨日の定例会に引き続き、「令和 2 年度使用大田区立小学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長

それでは、昨日の第 8 回定例会に引き続き、令和 2 年度使用大田区立小学校教科用図書採択の審議を行います。

昨日の定例会では、国語、書写、社会、地図、算数、理科の 6 種目について審議をいたしました。

本日は、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳の 7 種目について審議を行います。

それでは、初めに、生活について審議をいたします。生活の発行者は、7 者でございます。

それでは、委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

生活は、「東京書籍」を選びました。

本が大きいにもかかわらず軽いのが、ほかの出版社よりもすぐれていると思いました。拡大された紙面を利用し、学びのプロセスを掲載しております。

また、新しい学習指導要綱に示された資質・能力の三つの柱などの基礎、学びに向かう力を吹き出しで具体化しております。

生活条件の主体的、対話的で深い学びの過程の学びを深めるコーナーに示しております。さらに振り返ることのできる掲示物、ICT機器の活用例など、学びが深まる学習環境を示しております。

また、スタートカリキュラムが文章と写真、イラストなどで描かれていて、全体が見渡せてよくわかりました。既に幼児期に育まれたものが小学校に入ってからもつなげていく

10の姿が文章とイラストで描かれていて、とてもわかりやすく、家庭と連携をとりながら、小学校でもさらに伸ばすものが明確にわかるようになっております。

他教科につながる「学びのめ」を集めた「つながる 広がる」や決まりやマナーも掲載されております。QRコード、また、Dマークは、子どもと保護者をつなぐいいツールになると思います。

上巻巻末に各季節に見られる主な植物や昆虫など、実物大で描かれたポケット図鑑が見やすく、しかも取り外しが可能なところがメリットだと思います。生活の学習で身につく習慣や技能をまとめた活動便利帳、各巻末設け活動に応じて活用できるようにしていました。特に下巻では、学習を進める上で必要な習慣や技能である学び方を掲載しております。また、安心・安全に配慮し、三つの災害への対応についてイラストで説明しているところもすぐれていると思いました。

チャドクガだとかアシナガバチなど、注意しなくてはならないものについては、約束としてイラストで何に気をつけなければいけないのかが誰でもはっきりわかるようになっていところがよかったと思います。

そのほかにも、どんな芽、何の種類、あるいは外来種生物との関わり方を詳しく解説してあったりし、植物の成長が見渡せるパノラマページ、季節の行事を写真やイラストで紹介されているところが大変充実した資料だと思います。

以上により、「東京書籍」を選ばせていただきました。

#### ○高橋委員

高橋でございます。

生活は「啓林館」を推薦いたします。

最初に、学校になれる内容がよいと思いました。わかりやすく、あいうえおで学校生活を紹介しています。新しい毎日、一緒にできるかな、うきうき遊ぼう、笑顔の学級、おもしろいな・楽しいなです。

安心・安全では、児童の学習欄に保護者の皆様へのコメントもあり、新1年生の保護者には参考になると思います。

学習過程は、わくわく、生き生き、ぐんぐんとなっており、わくわくすることを見つけよう、友達と元気に活動しよう、みんなで伝え合おうと、何を学習するかがわかりやすくなっています。わくわくの中で、種をまこうの単元では、種から花になる観察が4ページありますが、ページを戻すことなく、毎ページ、種と比較した写真が示されているので、見やすいです。

季節を楽しもうでは、季節の遊び、草花、生物が学習できます。夏の校庭でゴーヤを見つけたよでは、ゴーヤの実と種になる実の写真があり、比較ができます。みんなに笑顔を広げようの中では、できることがいろいろあるねと気づきを大切にする学習ができます。昔からの遊びを楽しもうでは、地域の人とともに伝統が伝えられる内容です。下町探検は、大田区が紹介されている内容もあり、なじめました。おもちゃづくりはわくわくで、動くおもちゃを考えよう、生き生きは自分でおもちゃをつくってみよう、遊び方やルールを工夫しよう、ぐんぐんで、みんなで楽しく遊ぼうとして、作り方を示してあるのがわかりやすかったです。

最後に、ありがとうを届けようとして、カードを書いて渡す工夫がありました。  
以上の点から、「啓林館」を選びました。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私は、「大日本」を推薦いたします。

まず、小学1・2年生で使う教科書であるため、大きさが大きくないほうがよいと思いましたが、その上で、「大日本」は日本の遊びを多く取り入れているところがよいと思いました。日本の遊びは、折り紙のように個人での創作活動であるものもありますが、あやとりやこま回し、お手玉のように、一人ではなく複数で遊ぶこともできます。友達との関わりを期待できますが、おじいちゃんやおばあちゃんにも懐かしい遊びであることから、異世代に接するきっかけにもなり得るので、私は低学年の子どもの中に、ぜひ日本に昔からある遊びに親しんでほしいと思っています。

「学習どうぐばこ」では、昔遊びのルールについての記載もあるので、参考になります。

また、他の教科書でも同様の単元がありますが、「大日本」では下巻で、自分の成長について大変多くのページを使っています。小学2年生に成長するまで、両親をはじめ、多くの方の見守りがあったことを振り返り、それらをまとめた上で発表する。そして、こんな人になりたいなと未来の自分を思考して、上級学年へと継続していく点がよいと思いました。

その他全般にわたってですが、自分で通学できるようになったよ、きれいにできたよ、上手にできたよ等、やってみようという呼びかけではなく、達成感を流すような記載が随所に見られたところが、低学年の子どもたちの自己肯定感を促し、大変よいと思いました。

以上より、私は「大日本」を推薦いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

生活については、「啓林館」を推薦いたします。

学習指導要領の総則に、低学年における教育全体において、例えば、生活科において育成する、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科間等の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこととしていることを踏まえ、「啓林館」を推薦する三つの理由を述べます。

一つ目に、春夏秋冬の時節に合わせ「季節を楽しもう」という単元で、わくわくボックスとあり、様々な食物や動物、植物や虫など、全て実物の写真が掲載されており、全てに名前が記載されております。また、生き物と触れ合おうでは、獣医師がやはり写真で掲載されているほか、消防士や警察官など、それぞれの場面に応じ、職業についての内容が話し合われると予測することから、低学年からキャリア教育のきっかけにもつながるのでは

ないかと考えます。

二つ目に、大田区にある様々な場所が掲載されていることです。まち探検の単元では、実際に訪れることができることや、児童が日ごろの生活の中でなれ親しんでいる場所であることが予測されることや、商店で働く人についても親しみを持てることなど、知っている場所や人が教科書に載っていることは、児童や保護者にとっても生活科の学習により一層の学習意欲が発揮できると判断します。

掲載されている東蒲田公園、六郷のとんび凧、大鳥居交番、和菓子屋志良井、ジュルフラワーウイングキッチン、大田図書館、久が原児童館に関しても、それぞれ写真が掲載されております。

三つ目は、おもちゃをつくる単元で、「啓林館」はとてもわかりやすく示されており、教員、児童ともに活動が進めやすいと判断します。

また、「啓林館」の全ての教科書において、とても軽く、児童に負担がなく使用できる点を評価いたします。

以上のことから、私は「啓林館」を推薦いたします。

#### ○三留委員

三留でございます。

生活は「光村」を推薦いたします。

「光村」は、ホップ・ステップ・ジャンプで学習過程を表現しています。各ページのタイトルのつけ方が適切のように感じました。全体的に写真やイラストを中心に構成し、教材の配列等も工夫しながら、児童の学習意欲を引き出しているように思います。

「もっとやってみたい」のページは、発展として、興味深い取り組みが示されています。また、学習カードを定型にして、いろいろな例をまとめているのも、教師、子どもにとって使いやすいのではないかと感じました。

「光村」は、季節感をよく意識させる教科書だと思いました。もうすぐ夏休み、夏の楽しみ、もうすぐ冬休み、冬の楽しみや季節の贈り物のページなど、引きつけられる内容となっています。

「木の一年」のページでは、里山と市街地の街路樹の両方の季節の変化を扱ったり、季節の贈り物で、春夏秋冬のまちの変化を扱ったりするなど、都心部の学校への配慮もあります。

学習指導要領生活の指導計画作成と内容の取り扱いでは、動植物に関わる内容については、2学年間にわたって取り扱うものとし、動物や植物への関わり方が深まるよう、継続的な飼育、栽培を行うようにすることとあります。この点でいきますと、「光村」は各上下巻で飼育・栽培単元を設けており、継続的学習をしやすいのが特徴となっています。

下巻の教科書では、単元の終わりに、新聞やパンフレットなど、様々な学習成果をまとめる例が載せられています。お礼の手紙の書き方など、学習のためにお世話になった方への配慮も感じられます。

下巻の巻末には、広がる生活科辞典がありますが、安全、ルール・マナー、考え方、表現の仕方がわかりやすくまとめてあり、活用できると考えました。全体的に情報量を精選し、児童の多様な発想を促すという観点からも、「光村」がよいと考えました。

以上でございます。

#### ○教育長

私は、生活は「啓林館」がいいと思います。

先ほど、後藤委員のお話にもありましたが、まち探検のところで、交番であるとか、和菓子屋さん、それから児童館、公園、様々なところが写真で紹介されています。このように、自分の地域に関わる場所、人、ものが教科書に掲載されていると、やはり子どもの地域を探検するときの意欲に結びつくかと思います。生活科の学習をする上で、大変に効果的だというふうに思います。

また、区民意見を見てみますと、生活科の教科書に自分の知っている施設や場所が出てきて驚いた、それから自分も遊んだとんび凧などが載っていて、懐かしい思いがする、そういう教科書を子どもが使ってくれるのはうれしいという意見も見受けられました。親御さんと一緒に、地域の文化、生活、まちの様子について興味を持って学習していくという意味では、効果的なのではないかと思います。

また、「啓林館」は、おもちゃづくりが充実しているという評価が高くございます。風で動くおもちゃとか、ゴムで動くおもちゃのつくり方、そういったのがとても充実しているところでございます。大田区はものづくり産業ということが、区の特徴でございますけれども、小さいときからおもちゃをつかって、たくさん遊ぶということは、やはりものづくりの文化に触れることにもつながっていくかなと思います。

うまく回るように、それから早く動くように、遠くまで飛ぶようにということで工夫を重ねて、おもちゃづくりを楽しむことは、将来、技術、そういうものを想像していく上で貴重な体験で、全ての大田区の子どもたちに味わわせたい体験だったと思っています。

私は、以上のことで、「啓林館」ということでございます。

それでは、今、ご意見の中で4者やや割れているといたしますか、分かれているところでございますけれども、今のお話を聞いて、またお話しただけすることはありますでしょうか。

#### ○三留委員

三留でございます。

「啓林館」の生活の教科書について、意見を述べさせていただきます。

私は、「光村」を推薦いたしましたが、「啓林館」も私の選択の最終候補となった教科書であります。「啓林館」は、いきいき、わくわく、ぐんぐんの表現で、活動への意欲、具体的な活動や体験、効果的な表現を意図した過程がつくられていると思いました。

また、幼児期の写真から始まるスタートカリキュラムに関わる記述が充実しているのも特徴です。子どもたちがスムーズに学校生活に溶け込み、なれることを意図した巻頭部分になっています。

下巻では、巻末に中学年以降の円滑な接続につながるステップブックがついています。学校等段階、学級段階の円滑な接続は、学習指導要領総則にも述べられているところです。

また、他者に見られない特色として、めくり言葉が右下についており、次の活動に意欲を持って取り組めるようにしています。

「啓林館」も光村同様、学習カードを定型にして、いろいろな例をまとめています。教師、子どもにとって使いやすいのではないかなと感じました。

巻末の学習図鑑も充実しており、様々な学習に対応できます。

以上述べました理由で、私は、「啓林館」もよいのではないかと考えております。

#### ○教育長

ありがとうございました。ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、審議のまとめのほうをしたいというふうに思います。

審議の中では、東京書籍、大日本などを評価する意見もございましたが、「啓林館」を評価する声が、意見が多かったというふうにまとめたいというふうに思いますが、生活科については「啓林館」を評価する、がよいということでもまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」の声)

○教育長 それでは、生活科については、「啓林館」といたします。

続いて、音楽について審議します。音楽の発行者は2者ございます。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

音楽の教科書は、「教育芸術」を選びました。

新学習指導要領において、育成を目指す資質能力は三つの柱で整理されています。

「教育芸術」では、気づく、わかる、できる、このように演奏したい、音楽が好きな理由、そして楽しみながら音楽の学びと向かい合うことができるようにつくられています。

学びの地図では、子どもたちが主体的に学習に取り組めるように、何を学ぶのか、また、年間を通じて学習の見通しがわかるようになっております。

また、巻末には振り返りのページがあり、学習したことを確認できるようになっております。

全体的に楽譜や図が大きく見やすいと感じました。

主体的に学習が進められるように、演奏家によるワンポイントアドバイスや、合奏するときに必要なヒントを示したコラムが充実していました。

3年生のリコーダーの音の出し方の説明、4年生の琴の説明や爪の使い方など、非常にわかりやすく、丁寧に説明されていました。

また、4年生のもみじの歌詞と美しい紅葉の写真が情景をよくあらわし、感情移入がしやすくなると考えます。

各学年で取り上げられている「歌い継ごう日本の歌」はすばらしいものばかりで、ぜひ歌い継がれていくことを希望いたします。

このたび、1年生から6年生の教科書を一度に見る機会があり、6冊を並べて、表紙のイラストがつながることがわかりました。小学校で使った教科書を6年終了した段階で並べてみて、各学年を振り返ってみるのもいいのではないかと思います。



最後に、各巻末に「君が代」が載っております。音楽の1・2は「君が代」がどのような場面で歌われるのかを掲示しています。3・4では「君が代」の歌詞にあるさざれ石について説明し、歌詞を覚えて歌う学習を支えています。5、6では、国家を歌ったり、聞いたりするときの一般的なマナーに触れております。

そのように、子どもたちに多くのことを学ばせてあげられるような教科書である「教育芸術」を私は選びました。

#### ○高橋委員

高橋です。

音楽は「教芸」を選びました。

見開きページで学習できて、また、音符も見やすく、旋律は図解で示されていて、わかりやすかったです。テーマ、課題が太字で表示されているので、学習の仕方が理解できます。

鍵盤ハーモニカは写真が見開き1ページを使い、見やすく、指の位置がわかりやすいです。リコーダーの指の図が児童の向きと合っているのは、とてもいいと思いました。また、ガーゼの使い方の説明があって、楽器を大切にすることを学びます。

オーケストラの響きを楽しみましょう、親しみましょうでは、それぞれの活躍する部分として、金管楽器、木管楽器、弦楽器などを紹介し、いろいろな音色を感じ取る学習になっています。

また、インタビューやメッセージが記載されていて、演奏者の気持ちや考えなどを知ることができます。童歌では遊び方が紹介されているので、日常でも使うことができます。

地域に伝わる音楽で楽しもうでは、祭りばやしの紹介があり、各地のお祭りや使われている楽器を学びます。

星空の様子をあらわす音楽をつくりましょうでは、夕方、夜、朝方の写真を見ながら、音楽づくりをします。1年生では、情景をイメージしやすい写真でした。

4年生からの巻末にある音楽の歴史をつくった人のページは、参考になり、知識として残る資料でした。

最終ページには、「君が代」の音符と歌が記載されており、1・2年生ではオリンピックなどで斉唱する写真、3・4年生では歌詞にあるさざれ石についての紹介が各地のさざれ石の写真とともにあり、5・6年生では歌ったり、聞いたりするときのマナーが記載されています。

以上の点で、音楽は「教芸」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私も「教育芸術社」を推薦いたします。

音楽は、メロディーに乗せて自分の情感を表現するものであり、特に小学生は友達と一緒に歌ったり演奏したりすることで、楽しいを感じることが大切だと考え、そのような視点から検討いたしました。

「教育出版」では、低学年から曲は五線譜で記載されていますが、「教育芸術社」では

音階が出てくる場面では、五線譜のほか、音の高さでメロディーをあらわしています。低学年の子どもでまだ五線譜をきちんと理解できていない子どももいる中で、五線譜で視覚的に音を把握するよう指導するよりも、音の高低で感覚的にメロディーを身につけるところから入っていったほうが音楽に親しみやすい子どもがいることを考え、「教育芸術社」がよいと考えました。

題材についてですが、「教育芸術社」では、どの学年でも巻頭で心をつなぐ曲を掲載し、巻末のほうで、「みんなで楽しく」を掲載しています。みんなで楽しくでは、1年間、授業で習ってきた音楽の決まりを使って、合唱や合奏するための曲が複数掲載されており、みんなで歌や楽器に合わせて音楽を楽しむ工夫がされています。

また、弘瀬委員や高橋委員のおっしゃっていたように、1年生から6年生まで、「君が代」が掲載されていますが、他国の国家を尊重することが大切であることや、国歌を聞かときの、国歌というのは歌のほうです。国歌を聞かときのマナーなどが掲載されており、これからますます国際交流が深まるであろう大田の子どもたちに、ぜひ身につけてほしいと思いました。

以上の理由から、私は「教育芸術社」を推薦いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

音楽については、「教育芸術」を推薦いたします。理由は四つございます。

一つ目は、楽譜で学習する前の導入段階で楽譜に見立てた図を示しておりますが、音の高低が一目でわかり、楽譜を読むことができない年齢の児童にとっては、大変効果的に演奏できる配慮がなされていると言えます。このことは、7月23日の定例会で調査委員会に質問をし、回答を得ていることで、楽譜の読み方についての指導内容が確認でき、それらを踏まえ、「教育芸術」は児童が楽しく音楽に触れ、また、演奏できる教科書と判断します。

二つ目に、知識を表現できるように配慮されていることで、知識を学んだ後、実際に演奏ができるようにつくられていることです。

三つ目は、曲の選択です。児童の学習過程に配慮し、系統的に選択されていることから、学びを積み重ねることができ、学んだ音楽を深く感じ取ること、学びの定着が見込めると考えます。

四つ目は、1年から6年までの全学年の最終ページに国歌が掲載されており、1年から4年までは「君が代」についての説明文があり、5・6年は、互いの国歌を尊重しようという記述があります。世界中の人々も国歌に誇りを持っていることを文章で示し、他国の国家を尊重することが大切と記している点で、世界全体に対し心を寄せることや、また、興味を持つことができ、よいと思います。

また、各委員方からもご意見がございましたが、日本の様々な場所にあるさざれ石が掲載されていることも知識が豊富となり、よいことと思います。

以上のことから、私は「教育芸術」を推薦いたします。

### ○三留委員

音楽は、2者のうち「教芸」を推薦いたします。

「教芸」は、学習することの主な内容が目次の前に見開きで示され、年間の学習を概観し、見直しをもつためには適切と思います。

また、各ページのキャラクターの吹き出しで、学習のポイントや関連する事項などを指摘していますが、内容が適切と感じました。

各ページの冒頭の活動を呼びかけるタイトルは、2者ともつけられていますが、「教芸」は、さらに主体的に学習するための投げかけの文章が見られます。内容としてよいと思いました。

また、解説の文がポイントを押さえていて、情報量が精選されているように感じました。その分、楽譜や図が大きく記されているのがよいと感じました。

また、2者とも、日本の伝統音楽・伝統芸能をしっかり取り上げていますが、私は「教芸」が充実していると感じました。

また、「教芸」には音楽の歴史をつくった人のページがあり、教科書の題材に関連した作曲家について触れています。学習の関連としても活用できると考えました。

1年生では鍵盤ハーモニカに関わる初期指導、3年生ではリコーダーに係る初期指導のページがありますが、解説が丁寧でわかりやすいと思いました。リコーダーのページでは楽器を大切にしようということで、清潔に保つための方法に触れているものよいと思いました。

4年生には、国語の全ての教科書に載っている「ごんぎつね」に関わる教材がありません。旋律に乗せて朗読するという活動がありますが、国語との合科的学習など、教科を関連させて行う学習としてよい取り上げ方だと思いました。

鑑賞教材もバラエティにとんでいて、興味深く感じました。

各学年の振り返りのページもよくまとめられていると思い、「教芸」を推薦することといたしました。

以上でございます。

### ○教育長

私も、音楽は「教芸」を推したいというふうに思います。

「教芸」は、1年間でこんな学習をするよというところが教科書の初めのところ、見開きであります。6年生の学習というところでも、四つの領域、歌うこと、演奏すること、聞くこと、つくること、その四つの領域が示されています。それから、その四つの領域ごとに思いを持って歌うこと、それから、全体の響きを感じ取って歌うことなど、1年間を通してどういうことに取り組んでいくかということが示されています。

また、曲ごとに、具体的にその目当てや手だて、学習の流れが示されているので、非常に一貫性がある、先生も子どもたちもどのように学習に取り組めばよいかということがわかりやすいなというふうに思いました。

また、楽譜がとてもわかりやすく工夫されているというところは、これはほかの委員の先生方と同じところでございます。

それから「教芸」は、卒業式に参加する5年生を意識した「威風堂々」という合奏の曲

や、「大空を迎える朝」「蛍に光」などが載っています。また、6年生、「さらば友よ」「仰げば尊し」「旅立ちの日に」など、卒業式を意識したものが載っております。

このように、1年間の生活、音楽活動と結びつけて取り組んでいるところが、そういう教材が取り上げているところが、実際の学校生活に沿った音楽学習ができることだというふうに思います。

結論として、「教芸」がわかりやすく、子どもたちの生活に適したものではないかと考えております。

それでは、審議のまとめをいたしたいと思います。

音楽については、「教芸」が最も評価が高かいということでもまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

それでは、音楽については、「教芸」といたします。

続きまして、図画工作について審議いたします。図画工作の発行者は、2者あります。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

図画工作は、「日文」を選びました。

三つの柱にそくした学習の仕方、導入、展開、繰り返しがわかりやすく書かれておりました。

各巻頭のオリエンテーションページでは、何をどのように学ぶのか、一目でわかるようになっております。

ページの下には、用具マーク、あるいは関連が深いページへのリンクが示してあったり、基本的な作り方についてのイラストがわかりやすく説明されたりしていました。

気をつけようでは、安全に活動できるように、注意事項を示してあったり、片づけでは再利用できるものは残し、元の位置に戻す、あるいは、道徳と関連が深い教材には道徳マークを示したりしてありました。

子どもたちの目からものづくりの楽しさ、つくることの喜びが伝わってくる、とてもいい写真が数多く記載されております。

また、ひらめきポケットでは、発想につながるヒントが書かれていて、とてもわかりやすいと思いました。

材料や用具の基本的な扱い方が、丁寧に説明されています。各学年の題材で使う材料、用具が一覧として掲載されていることもいいと感じました。

また、作った作品を家庭と共有したり、地域と連携し社会に開かれた教育に取り組んでいるコミュニケーションツールとしたりして、作品は大いに活躍するものであると考えます。

カリキュラムマネジメントにおいて、各教科等の学習を相互に関連づけて学びを深くす

る取り組みや幼児期との接続ページなども設けております。振り返りのページでは、中学になる子どもたちへのメッセージが書かれていました。

以上から、「日文」を選びました。

#### ○高橋委員

高橋です。

図工は、「日文」を選びました。

単元ごとに三つの学習の目当てが示されていて、活動のイメージがしやすいと思いました。見開きページを使い、製作過程がわかる写真が多く、児童のコメントもあり、作品づくりのヒントが得られると思います。気をつけること、片づけが示してあり、安全・安心であります。

巻末では、「使ってみよう、材料」と「用具の使い方」に気をつけることなどで注意できるようになっています。工夫した手法のおもしろ筆では、いろいろな材料で線や形を描く学習で楽しそうです。

墨と水から広がる世界は、水の量などで濃淡をつくり、使い方で線や絵が描ける工夫が紹介されています。自然を感じるすてきな場所では、その場所にあるもので何ができるか工夫しています。段ボールを使った夢のまちへは、組み合わせで様々な建物をつくる学習です。

ここにいたいでは、心地よい場所をつくる題材で想像力を養う学習になっています。

粘土を使った学習では、板にした粘土やひもにした粘土で立ち上げる活動や切ったり、かき出したり、くっつけて形を変えていく活動や住んでみたいまちを想像してつくる粘土マイタウンなど、どんなものができるか楽しみな活動がありました。

また、活動の後で考えてみようでは、振り返りができ、どんな視点で振り返りを書くとよいかを示されています。

以上の点で、「日文」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私は、「日本文教出版」を推薦します。

図画工作は、子どもたちのつくってみたい気持ちや想像力を大切にするという視点から検討いたしました。

まず、図画工作で何かをつくるためには、基本的な用具の使い方や材料の扱い方を習得する必要がありますが、「日本文教出版」では、学年ごとに巻末で材料や用具の使い方がわかりやすく説明されていました。

内容的には、様々な分野の作品例が数多く掲載されており、また、子どもたちが実際に作品をつくっている姿も多数掲載されていることから、作品づくりが身近に感じられ、ヒントを得たり、つくる時の参考にしたりするとともに、自分もつくってみたいという気持ちになると思います。

学習指導要領では、鑑賞により自分の見方や感じ方を広げることに言及されていますが、「日本文教出版」では、5・6年で平和や震災に関連する作品が掲載されており、美

術作品から平和への思いや命、ともに生きるという共生の大切さを感じ取り、美術を通して未来への訴えかけができることを学べるところがよいと思いました。

以上から、私は「日本文教出版」を推薦いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

図画工作については、「日本文教出版」を推薦いたします。理由は、四つございます。

一つ目に、題材が多く、選択するのに適しているという点です。このことは、低学年では学級担任が授業を進める上で、また、学校の状況によっては、高学年においても期間を限定し、専科でない教員が指導することも考えられ、題材が多いことは授業計画が立てやすく、よい授業展開が見込めるといった点で大変よいと思います。

二つ目に、言葉から想像を広げて、詩や短歌、物語を読んでイメージを広げよう、どんな形や色が自分の思いに合うかなと記してあり、想像力を養う配慮がなされていることです。将来、出会う美術や芸術は、イメージと実際に見たものや、詩や短歌、読書などから感じ得たことを作品として表現することがとても大切だと考える視点から、言葉から想像するという児童に合った観点を示し、作品づくりの手だてとしていることは大変よいと思います。

また、言葉から感じたことを形や色として捉え、あらかし方を工夫する、言葉からイメージを広げ、形や色などの構成を考える。言葉からイメージしたり、絵にしたりすることを楽しむと丁寧な記述があることも、児童や教員、保護者にとって明確であり、作品づくりの手がかりとなると捉えます。

三つ目に、美術館へ行こうといったページがあり、教科書美術館として様々な実在する美術館が作品とともに掲載されており、児童や保護者にとって、実際に行ってみようなどと美術館に興味を持つきっかけとなるのもよいことと思います。

四つ目に、私の感じる和として、着物や扇、切り子細工や焼き物、また、和食などが掲載されており、日本独自の和に対する関心が養われることや、3・4年の作品をつくる単元、空き容器の変身では、身近なもので作品をつくる想像力を発揮することにつながると考えます。

このことは、家庭との関わりを大切にでき、児童にとっては大変よいことと思います。

以上のことから、私は「日本文教出版」を推薦いたします。

#### ○三留委員

私は、図画工作については、「開隆堂」を推薦いたします。

「開隆堂」は、各学年の冒頭に、図画工作を学ぶ皆さんへというページがあります。そこに、学習の目当てとして、つけるべき三つの力が示されています。これは、児童が学習の方向性を持つ上で、大切なことと思いました。

各ページの題材ごとにも三つの力に関わる学習の課題が端的に示してあります。続いて片観音開きで学年の学習の概観が写真構成で示されています。これについては、児童が見通しを持って学習に臨む上で有効と感じました。

「開隆堂」は、制作過程などの情報量が適切で、児童の様々な発想や教師の指導の多様

性を促すと考えました。

見開きの各ページの左上には、絵画、立体、工作、造形遊びなどの項目のほか、その学習で準備する道具が示されていて、学習に取り組みやすいようになっています。また、様々なキャラクターを使い、学習活動を広げ、深める吹き出しがあります。

刃物等を扱うページでは、写真等を用いてわかりやすく安全について注意喚起をしていることも必要なことと思いました。

工作の内容では、各学年にひらめきコーナーがあって、やってみたい、つくってみたいと思うような題材と紙面構成を感じました。共同制作や学び合いを示唆する記述等も多く、子どもにとって楽しくやりがいのある活動につながると思いました。

鑑賞にもつながる小さな美術館、みんなに出会えるというページがありますが、全体的に図版が多く、発色が美しいのがよいと思います。日本各地の芸術に関わる催しや活動を紹介しており、身近な伝統や芸術に目を向ける機会となります。

巻末には、造形の引き出しという学びの資料があります。技能の習熟につながる資料と感じました。

以上でございます。

#### ○教育長

それでは私から、両者とも子どもたちの作品や活動の様子がたくさんあって、とても楽しい教科書であるという感想を持ちましたが、「日文」のほうがよいのではないかと思います。

教育委員のご発言でもありましたけれども、作品をつくる過程で子どもたちの活動の様子が、吹き出しや様子が写真でたくさん写っております。非常にわかりやすく感じました。作業の進め方など、子どもたちがどのように活動していくか、非常にイメージが持ちやすいと思いました。

発想や構想をすることにやや課題があると言われている本区の子どもたちにとって、発想や構想、造形活動を進める上でヒントになると思います。

それから、これも教育委員の方々から出た意見でございますけれども、のこぎりやかなづちの使い方、絵の具の色のみぜ方など、「日文」のほうがわかりやすいように感じました。これらの基本的な道具の扱いは、子どもたちの造形活動を支えるものとして、丁寧に指導する必要があると思います。特に、安全面で、彫刻刀の扱い方でございますが、やはり実際に指を切る子も見られます。そういう意味では、「日文」では、彫刻刀の歯の前に絶対に手を出さないと特別な注意を促す囲みもあり。よいと思いました。

専科の図工の先生は、素材や活動を自ら開発して指導しているという経験が豊富でございますけれども、若い先生たち、図工の指導の経験の浅い先生方には、やや「日文」のほうが指導しやすいように感じたところでございます。

それでは、図工につきまして審議のまとめをいたします。

審議では、「開隆堂」を評価する意見もございましたが、「日文」を評価する意見が多かったようでございます。

図画工作につきましては、日文が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、図画工作については、「日文」といたします。  
続いて、家庭について審議いたします。家庭の発行者は、2者ございます。  
委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

家庭科は「開隆堂」を選びました。

家庭科で見つけること、気づく、わかる、できる、生かす、深める、のステップを基本として、学びの進め方がよくわかるイラストで描かれて、理解しやすいです。

学習指導要領で新設された生活の課題と実践例が3例ずつ載っているところ、他教科や教科内との関連については、マークをつけてわかりやすくしているところ、特に英語については、視覚を利用して、さらに覚えやすくなっております。

調理実習については、写真とイラストをたくさん掲載し、非常にわかりやすくなっております。実物大の写真で技能の習得をサポートして非常によかったと思っております。

はさみ、針、包丁の使い方など、左きき、右ききの両方の写真が載っていて、しかも拡大されていてわかりやすかったです。

また、安全に実習をするための特設ページが設けてあり、具体的で非常によかったと思っております。災害時の具体的な対応について、ふだんの生活から気をつけておきたいことにも触れておりました。最後に家庭科に関する用語が一覧に示されていて、非常に便利であると感じました。

以上から、私は「開隆堂」を選びました。

○高橋委員

高橋です。

家庭科は、「開隆堂」を選択いたしました。

文字の大きさのバランスがよく写真も多く、製作についてもわかりやすく示されています。なぜするのだろうという学習になっていて、クッキングはじめの一步では、なぜ調理をするのだろうとあり、自分で食事の用意ができるようになるために、調理に必要な手順や用具を学習するページが詳しく書かれています。

次に、ソーイングはじめの一步では、なぜ縫うのだろうとあり、針と糸を使った学習になります。また、玉結びの解説がとてもわかりやすいものでした。

整理整頓で快適には、なぜ整理整頓をするのだろうの学習をします。

ミシンでソーイングでは、なぜミシンで縫うのだろうとあり、使い方やつくってみようで、作品づくりに進めます。

また、単元への配列が家庭科作品展覧会に製作作品を出品できるよう配置されております。児童が納得し、理解しやすい学習になっています。



「できるよ家庭の仕事」では、家庭で実践できることが学べます。

食べて元気には、基本であるご飯とみそ汁の作り方が写真の説明でわかりやすく表示してあります。

生活を支える金と物では、買い物について、買う前に考えることから必要かどうか、環境に与える影響がないかなどを図で示し、考えさせています。

きき手はどちらでは、右きき、左ききの使い方を示したページで参考になります。

巻末では、家庭科の用語、英語ではどういうのが紹介されており、知識として学習できます。

以上の点から、「開隆堂」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私は、「東京書籍」を推薦します。

家庭科は、衣食住に関して、体験的な活動を通して自分の身の回りのことは自分でできるようにするという視点から検討しました。

「東京書籍」も「開隆堂」も調理実習、裁縫、ミシン等の実習についてはどちらもわかりやすくてよかったと思います。

その中で、「東京書籍」のほうがよいと思った理由は二つあります。

一つは、学習指導要領で新設された買い物の仕組みの単元ですが、この単元は全体的に「東京書籍」がわかりやすいと思いました。特に、売買契約の説明はよく工夫されていました。民法では、契約締結自由の原則があり、自分の意思で自由に契約をすることができるのが原則であり、売買契約は典型的な法律行為の一つですから、売買契約がどのように成立するかについて学ぶことは、他の法律行為を勉強していく上で大変意味があることです。

「東京書籍」では、売買契約の成立時期について、1 買う本を選ぶ、2 「これください」「はい、500円です」というやりとり、3 500円を払う、4 本を受け取ると4段階に分けて、イラストのクイズ形式で投げかけているのですが、それにより、売買の成立時期が認識しやすく大変よかったと思います。

また、家庭科の教科書は、5・6年を通して1冊使用するという形式になっており、5年で学んだことを6年で少し難易度を上げて繰り返し学ぶということがあります。例えば、五大栄養素と体内での働きという単元がそれに該当します。

「東京書籍」では、5年でまず学びますが、その後、6年でまた同じ単元が出てくるので、相互に関連づけられるようリンクという記号を使って、お互いのページ数を記載しています。そのため、学年を越えた単元内の関連性がわかりやすくなっており、その点がよいと思いました。

以上より、私は「東京書籍」を推薦いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

家庭は、「開隆堂」を推薦いたします。理由は、五つございます。

一つ目に、6年、ミシンの学習、生活を豊かにソーイングですが、大田区では3学期に行われる家庭科作品展覧会に作品を出品することができ、「開隆堂」では、2学期の初めに配置していることで、作品を出品するのも制作期間に余裕を持つことができ、適していると考え評価いたします。

二つ目に、安全についてです。包丁の取り扱い方では、包丁を持つ姿勢、包丁の持ち方、包丁を使うときの材料の押さえ方、包丁とまな板の置き方など、挿絵とともに丁寧に記載されております。

また、ガスコンロを安全に使うにはとあり、安全チェック項目、点火前、点火後、消火後とチェックを入れる方式になっていることも、注意をする点で重要です。

また、学習の目当てとして、1 見つける・気づく、2 わかる・できる、3 生かす・深めると明確でわかりやすいです。

三つ目は、調べよう、考えよう、話し合おうと、一連の流れで学習を進めていくことができ、単元の終わりには、振り返ろう、生活に生かそうとあり、学んだことを振り返り、実際の生活に生かすことを促していることも重要なことと捉えます。

四つ目は、高橋委員のご意見にもございましたが、整理整頓で快適にの単元で、なぜ整理整頓をするのだろうといった設問に対し、1 調べる、2 発表する とあり、話し合おうでは、問題点と理由について表にまとめるなど、深い学びとなると考えます。

また、手順についても詳細に記載されており、1、見通しを持ち、計画を立てる、2、整理する、3、整頓する、4、使う・戻す、5、見直し続けると明確です。

また、家庭で実践できるよう、チャレンジコーナーとして調理、ソーイング、整理整頓等が記載されていることも大変よいです。

五つ目に、実習をする際の安全性についての丁寧な説明が記され、初めて実習をするときから身につくよう指導ができる内容となっております。

また、姿勢についても、ミシンの学習や包丁の取り扱いなどで正しい示しがあり、児童にとって注意する手だてとなると考えます。

また、新学習指導要領でも示されている買い物と騒音についても、児童にわかりやすく、しっかりと学べる内容となっております。

また、家庭科用語が一覧で示されていることも評価する点です。

以上のことから、私は「開隆堂」を推薦いたします。

### ○三留委員

家庭科は、「開隆堂」を推薦いたします。

東書、開隆堂、2者の教科書を見て、家庭科においても問題解決的な学習を重視する傾向がより強くなったと感じます。また、2者どちらも紙面構成に工夫があり、作業の解説や写真、イラストがわかりやすいと感じました。

その中で、「開隆堂」は情報量が適量で、基礎・基本をしっかり押さえられるような内容になっていると思います。また、開隆堂は、見つける・気づく、わかる・できる、生かす・深める過程を示し、それに沿って学習が進められるようになっています。

冒頭の始めよう生活科では、生活科の見方・考え方の四つの視点が示されていますが、家庭科学習にとって重要な指摘と感じました。

初めに、安全に実習しようのページがあり、単元の学習に入る前に、見開きで安全配慮についてイラストから危険な活動を探させたり、チェック項目つきの表で確認させるようにしたりしています。

また、各ページに適宜、調べよう、考えよう、話し合おう、発表しよう、やってみようのコーナーがあり、活動を促したり、疑問を提示したり、話し合いの視点を示したりするのは効果的です。

各ページの最下段についている一口メモは、児童の学習の発展につながります。

家庭科の学習は、家庭や地域で生活をよりよくできる児童の育成を目指していると言えます。

そういう意味で、家庭へつなぐ効果的な記述が求められます。家庭で実践しようチャレンジコーナーでは、発展的に扱うものの例を示し、児童の主体的実践を促しています。5年の終わりのレッツトライというコーナーでも、それまで学習の成果を生かして、家庭、学校、地域で実践例を紹介し、活動を促しています。

また、6年の終わりに、2年間の学習を振り返ってということで、中学校の学習につながるページも適切と考えました。

また、「開隆堂」では、6年の終わりに生活の中のプログラミングというタイトルで、電化製品のプログラムについて触れています。炊飯器と洗濯機、そして、それと鍋を使ったり、手で洗ったりする作業と比べて効果的なプログラミングの指示によってつくられているということを実感させ、その後、ご飯とみそ汁を同時につくるという、いわゆる段取りに結びつけています。段取りをつけるというのは、家庭生活で非常に重要なことで、記述内容に工夫があると感じました。生活の中にある様々なプログラミングされた機器の紹介もしています。

また、「開隆堂」では、巻末の見開きで、索引の家庭科の学習用語と英語表記の対照表が一覧で示されていて、身近な英単語ということで外国語科の関わりでもよいと思いました。

家庭科についての意見は以上でございます。

## ○教育長

私は、「開隆堂」がいいのではないかと思います。

教科用図書調整委員会の報告書にありますように、「開隆堂」は、初めの1、2ページの見開きで、生活の見方・考え方を協力する・助け合う、健康・快適・安全に生活する、人々の生活や文化の大切さに気づく、持続可能な社会を目指すと、四つの視点を示しております。この四つの視点が、子どもたちが一連の学習活動の中で確認できるような内容になっており、よいと考えました。

これらの四つの視点は、子どもたちのこれからの家庭生活、社会生活を送る上で非常に大切な観点であると思います。

家庭では、調理、手縫い、ミシンなど実技が多いのですが、「開隆堂」の写真などが鮮明で、やり方や手順がわかりやすいとの学校意見が多く見られました。確かに、ボタンつけなどのやり方は、「開隆堂」がわかりやすく、実技教科の教科書として、ふさわしいのではないかと感じました。

また、「開隆堂」は、情報量が多過ぎず、コンパクトにまとまっている印象を受けました。

「開隆堂」につきまして、生活に生かそうという欄が単元の一番最後にありますが、家庭科の学習としては、生活に生かそうという観点は、具体的な子どもたちの実践力に結びつくものであり、ふさわしいというふうに感じたところでございます。

それでは、審議のまとめをいたします。

審議では、「東書」を評価するご意見もございましたが、「開隆堂」を評価する意見が多かったようでございます。

家庭科については、「開隆堂」が最も評価が高かったということでもまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

それでは、家庭については、「開隆堂」といたします。

続いて、保健について審議いたします。保健の発行者は、5者でございます。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

保健は、「学研」を選びました。目次が見やすいこと、1時間の学習の進め方がわかりやすいこと、友達あるいは共有マークなどをつけて、活動内容をはっきり分けていることなど、使い勝手がいいと思えました。

体の発育・発達では、思春期に起こる心や体の変化には個人差があるということをととても重要であると考えております。

3年生の健康な生活では、養護教諭の話、学校薬剤師の話が載っていることで、理解が深まり、また、興味も湧いてくると思えます。同様に、4年生の体の発育・発達ではイラストによりわかりやすく、睡眠と成長ホルモンのグラフでは学校医の話が載っていて、同じように理解しやすいと思えます。

5・6年生のがん教育、こころの健康では、本格的に始まったがん教育に対し、わかりやすい説明で内容も充実していると考えております。喫煙に関して、一昨年からはまった、大田区の喫煙防止教育に結びつくものであると考えております。

巻末に、防犯、防災について大切なことを整理して掲載されていて、評価できると思えました。

章末で「振り返る、深める、つなげる」で記述欄を設けていて、自己評価に役立つと思われれます。

保健の学習で必要となる用語や知ってほしい用語を言葉として解説されていて、とても役立つと思えました。

全体的に、写真、イラストが非常に豊富であるということから、私は「学研」を選びました。

## ○高橋委員

高橋です。

保健は、「学研」を選びました。

写真の説明がわかりやすく、イラスト、文字のバランスがとてもよく読みやすいと思いました。

学習の流れが、「ここで学ぶことの確認」学習課題の明示、「つかむ」生活や経験を具体的に振り返る場面を設けている、「考える・調べる」「本文」「まとめる・深める」とあり、学び方がわかりやすいです。

一緒に学ぶ人たちが登場しているので、協働学習が理解できます。

がん教育については、がんってどんな病気の中で、がんの起こり方、主な原因、予防を学び、喫煙の害、飲酒の害、薬物乱用の害にふれ、それぞれの害について十分に知り、誘われても断ることができる強い意志を持つことが大切ですとあります。さらに、薬物乱用の害では、勧められたときの断り方が示されています。

3・4年では、健康な生活で健康とはかけがえのないもので、1日の生活の仕方や清潔にすることで、気持ちよく生活できると示しています。病気の予防で、5・6年でも生活の仕方が原因で病気にかかることもあると、継続的な学習ができます。

体の発育・発達では、発育し変化していく体について、大人と子どもの違いや変化など、必要なことのみイラストで示しています。

心の健康では、心と体はつながっていて、体がリラックスすると心もリラックスするとあります。

不安や悩みへの対処については、考えてみよう、友達やクラスの仲間のこととあり、気づきや解決法を示しています。

けがの防止では、自分でできる簡単なけがの手当てを学び、生活の中で実践できる学びになっています。

以上の点から、「学研」を推薦いたします。

## ○深澤委員

深澤でございます。

私は、「学研」を推薦します。私が「学研」を推薦する理由は三つあります。

一つは、5・6年生で、心の健康、発達について思春期の子どもが目線に立った記述がなされていることです。心ってどこにあるのでは、心の働きは脳で行われていることを示し、集積したデータから行動を起こすロボットと違って、心を持つ人間だから豊かな考えや感情があり、悩みも生じるのだという説明や、悩みがあったらどのように解消すればいいのかについての具体的な記述、同じような悩みは誰にでもあるのだということが丁寧に記載されています。いじめについての記載もあります。

3・4年生で学ぶ、大人に近づく体では、年齢に伴って体に変化することを学びますが、男女の絵が影絵のようなイラストになっていて、思春期の子どもたちに羞恥心を抱かせずに、思春期に起こる体の変化を学ぶ配慮がされていました。

男女の体の仕組み、新しい生命が宿る過程について、必要最小限の情報がわかりやすく掲載されています。

5・6年で学ぶ病気の予防では、インフルエンザウイルス等、様々な病原体の写真が色鮮やか、かつリアルに掲載され、病気になる原因とその予防をわかりやすい絵や図を伴って説明しているところもよいと思いました。

以上から、私は「学研」を推薦いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

保健は、「学研」を推薦いたします。理由は四つございます。

一つ目に、3・4年生、体の中で起こる変化で、ここで学ぶこととして、思春期には体の中や心にどんな変化が起こるのでしょうか。女子に起こる変化、男子に起こる変化と示され、次に、体の変化はどうして起こるのとあり、学んだことをさらに深く知ることができ、次に、新しい命と進むことから、発展的な学習ができるといった点です。

また、深澤委員よりお話もありましたが、図でわかりやすく説明されており、その図にも配慮が見られ、思春期を迎える児童にとって適している図でとてもよいと思います。

二つ目に、身の回りの環境の単元で、みんなの健康を守るための活動として、学校ではみんなの健康を守るために、いろいろな人が活動しています。誰がどんなことをしているか調べて発表しましょうと記され、給食室、保健室、相談室、教室で活動している、それぞれの人たちが記載されています。僕たちの学校ではどうかな、みんなで調べてみたいね、などの吹き出しがあり、児童にとって学習意欲に効果が持てると考えます。

また、6年で健康を守るための地域の活動について学習しますと記載され、見通しを持つこともできます。

三つ目は、実験です。体の清潔として、濡れた脱脂綿で手を拭いて、汚れがついているか確かめてみましょうや、身の回りの環境として、明るさや物の見え方はどうなるか確かめてみましょうなど、児童が学習の中で実際に体験することで深い学びにつながると考えます。

四つ目は、5、6年、病気と健康についてです。がんってどんな病気として、がんの起こり方、かからないためにはどうしたらよいか、治らないのなど、Q&A方式で児童が深く考え、学べる方式となっており、パソコンやタブレットと健康では、目、姿勢、適切な部屋の明るさなど、詳細に記されていることで、児童にわかりやすいと考えます。

また、地域の様々な保健活動として、保健所、保健センターについて母子健康手帳の交付の写真は、大田区が掲載されております。

以上のことから、私は、「学研」を推薦いたします。

#### ○三留委員

保健については、「学研」を推薦いたします。

保健においても、各者問題解決的学習ということで重視していると感じています。

そういう中で、「学研」は、つかむ、考える・調べる、まとめる・深めるの学習過程、これを明確にして、適度に書き込み欄を設けて、子どもの主体的な学習の道筋をつくっているように思います。また、各ページにある問いが的確であるように感じました。

大田教育ビジョンにあるがん教育については、各委員からもお話がありましたけども、

私もしっかりとした記述があると、そういうふうに分えました。喫煙の害の学習については各者記述がありますが、「学研」は体への影響、有害物質の例などが具体的に書かれています。

また、長期間にわたって喫煙すると、体にどんな影響が出るのでしょうか、規制している場所が増えているのはなぜでしょうかなど、考えさせる問いかけがなされています。東書や光文にも記載がありますが、実習として喫煙を進められたときの断り方など、日常実践につなげるような取り上げ方もよいと思いました。

また、体の発達・発育の記述では、必要事項を詳しいイラストで解説し、体つき、男女の違いの変化のほか、一人一人の成長の違いや新しい命に触れています。

心の健康やいじめ、交通事故、学校や地域でのけがの防止などの内容が充実しています。

「学研」は、構成として学習内容の補足や発展的な内容を載せた資料ページが充実しており、学びの深まりや広がりが見込めると思います。

保健についての意見は以上でございます。

#### ○教育長

私も、保健は「学研」がよろしいと思います。調査委員会の報告書にもありますように、もっと知りたいという資料がつけられていて、子どもたちが興味ある知識や情報、または実践へのステップ、学習を生活の中で生かすために役立つものであると思います。

また、科学の目というコラムも設けられており、正しい科学的な情報をしっかりと学ぶことは、これから健康に過ごすために非常に大事な資質の部分ではないかと思います。

それから、「友達と」という欄があって、子どもたちが学校生活の中で共同して活動をするきっかけ、方法を示しておりますが、これは日常で実践的に健康づくりを行う、それを生かす意味で非常に有効であると考えております。

それでは、審議のまとめをいたします。

保健につきましては、「学研」が最も評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

#### ○教育長

それでは、保健については、「学研」といたします。

続いて、英語について審議いたします。英語の発行者は、7者でございます。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

#### ○弘瀬委員

弘瀬でございます。

英語は、「三省堂」を選びました。

1年間の学習の流れがはっきりしていること、学期ごとにホップ・ステップ・ジャンプで展開させ、1レッスン1時間で終了する組み立てで完結するので、計画を立て取り組め

ると考えます。

多少わからない語彙があっても、表現でイラストを見ながらわかるセリフをもとに、意味を想像しながら聞いたり読んだりしながら、推測する力を養っていく、トップダウン型の勉強とボトムアップ型の勉強の両方を学んでいきます。

また、聞く、読む、書く、話す、発表するが明確に書かれているので、勉強しやすいと思いました。

ローマ字で自分の名前を書くことから始め、無理なく英語の文字の学習に入っていけるようになっています。自ら学ぶ力を育むための豊富な付録をたくさん設けています。

5年生で、学習した主な表現系がまとめとして残っていて、英語で言えるかなと、前の学年までに覚えたことの振り返りができるようになっています。

6年生では、英語でこんなことができたと書いてあるものに対して、三つの王冠のうち、どれに当てはまるか自分で評価するところがあり、英語を定着させるのに必要になってくると考えております。

また、QRコードで単語、文の音声を聞くことができました。5年生では「北風と太陽」「12月の贈り物」、6年生では「青い鳥」「メリーさんの羊」など、よく耳にする話しです。内容がわかっている、音声を聞くと楽しく聞くことができ、身につくのではないかなと思いました。

聞き込み欄が少ないのは少し残念ではありますが、全体的に見て「三省堂」を選びました。

#### ○高橋委員

高橋です。

私は、英語は、「東書」を選びました。書くこと、読むことが加わった学習を進める上で、書くことに関する分量も多く、読むことでは会話文が太字になっていて、読みやすいと思いました。

サウンドアンドレターでは、アクセントを聞きながら学習することができます。書くことでは形の似ている文字について、違いに注意しながら文字を書こう。グループ分けでは手の動きに注意するとして、ぐるりんグループ・円を描くような動き、トランポリンググループ・上下の動きが中心、瓦割りグループ・下へ向かう動き、ギザギザグループ・直線の動きと四つの書き方が示してあり、注意点をわかりやすく学べます。

学習活動の進め方は、音に出会う、会話になれる、コミュニケーションを楽しむ、世界を広げる、学びを確かめるとあり、見通しを持って進められます。

ピクチャーディクショナリーは、いつでもどこでも使えるものとして有効です。エンジョイコミュニケーションでは、ステップ1、2、3と分かれていて、聞く活動、話す活動、発表、読む、書く学びができ、学び方がはっきりわかるようになっています。

聞き取りをした後で友達と学ぶことで、協働的学びができます。

ページ下には、Small Talk、Word Linkが示されていて、学習を進めていく上で参考になります。

昨年度までの文科省配布教材「We Can!」「Let's Try!」と同じなので、スムーズに外国語活動ができると思いました。



以上の点から、「東書」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私は、「三省堂」を推薦します。

私は、英語教育においては、繰り返し文章をインプットすることで、英語を聞き取る力を鍛えることが大切だと考えており、そのような視点から検討いたしました。

今回、教科書にQRコードが記載されている教科書が多数見受けられましたので、スマートフォンで聞いてみました。多くの会社が歌にのせて英文を読んでいた。

しかし、英語は言語であり、歌があることで英語本来の発音を聞き取ることが困難になってしまうことから、歌がバックに聞こえる教科書でないものがよいと考えました。三省堂は、QRコードをかざすとサンプル画面が限定されているため、この点に関して今後の改善を期待するところですが、聞いた限りでは英文のバックに歌は聞こえませんでした。

また、英語は文章でインプットする必要があると私は考えています。というのは、小さい子どもが言葉を覚えるとき、入ってきた言語をそのまま吸収しますが、親が子どもに呼びかけたり話すとき、大抵は文章で行われ、それによって子どもは言語を自然と身につけていくからです。

「三省堂」は、ホップでこれから学ぶことを理解した上で、ステップで Listen and Talk をします。ここでは story を聞いたり、listening をしたり、その単元で聞いたものを writing します。5年から6年まで一貫して文章で表現され、同じことを繰り返し行います。繰り返しが重要です。その点がいいと思いました。

以上から、私は「三省堂」を推薦いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

英語は、「三省堂」を推薦いたします。推薦理由として、全体的によいと思うこと、特徴について述べます。

5年導入として、形、丸や三角などをリスニング学習し、天気やイラストでの人の様子を英語で言おうといった取り組みから、教室で使う英語、友達や先生とのやりとりなどの文例へと、聞いてから話すという英語学習に効果的な要因がよいと思います。

また、全体的に、国際性豊かなイラストで、様々な国の人々への関心が持てると捉えます。

Sound Chant は、バーコード読み取り形式で、自宅での学習に効果が持てると考えます。

Listen and Talk では、遊びやスポーツ、歌を歌っている様子のイラストで、聞いてから実際に話す、テーマを変えてもう一度聞くの繰り返し学習が、児童にとってとても効果的な学習と言えます。

次に、大文字、小文字の認識についてですが、アルファベット大文字、小文字、コンピュータのキーボードが示されており、大文字は全部青い線の上にあるねや、Aはどこにあ

るのかななど、動物による吹き出しも示され、児童にはなじみやすいと考えます。また、大文字の書き方を示しているページですが、縦、横の直線だけの文字、縦、横、斜めの直線だけの文字、楕円の半分が入っている文字、楕円の一部が入っている文字、その他として五つに分け、形を整えると読みやすいね、などの吹き出しとともに、児童にわかりやすく大変よいと思います。

また、大文字と小文字を比べようのページには、大文字からの学びを生かし、大文字がそのまま半分の大きさになった文字、大文字のごく一部が変化した文字、大文字の一部が消えてなくなった文字、大文字の一部が繋がった文字、交差した文字、大文字の角がなくなり形が変わった文字と、全て共通言葉で示されており、児童にとっては大変わかりやすいといった点から、とても重要なルールだと捉えております。

また、小文字を書こうでは、大文字のときと同様に、1から5の区分に説明され、同じように学ぶことができます。

また、吹き出しには、4線を意識すると上手に書けるよと、色のついた4線に意識づけをすることで、児童の書く作業に取り組める大変スムーズな取りかかりだと思います。また、文字の大きさと位置に注意しようでは、中央の一升に入る小文字、上の二升に入る小文字、下の二升に入る小文字、その他の小文字として4線にアルファベットをあらわし、グループごとに示しております。

また、6年、世界の祭りの紹介などもあり、イタリア、中国、パプアニューギニア、ペルー、インド、タイ、アメリカなど、その国のお祭りの様子が写真で掲載されていることで、児童が楽しく知ることができ、知識も深まり大変よいことだと思います。

また、Jump. presentationでは、グループで好きな行事を紹介しよう、「目的、場面、授業を理解する」として「考えよう」「見通しを持ち準備する」として「発表の準備をしよう」「コミュニケーション」として「友達に伝えよう、みんなに伝えよう」といった児童が見ても教員が見ても非常にわかりやすく順序立てた学習を行うことで、実際に英語で話すということが身につくとよいと考えます。

5年生も同様で、Listen and Talk、Sound Chantでは、聞いて話すの繰り返し学習が非常に重要な点と捉えております。

以上のことから、私は「三省堂」を推薦いたします。

## ○三留委員

英語は「東書」を推薦いたします。

「東書」は、出会う、なれる、楽しむ、広げるの過程の中に、目標と学習の流れが明確化されています。見通しをもって楽しく学ぶ展開を意図していると感じます。適度な書き込み欄もよいと思いました。

また、親しみやすい書面構成で、多様な活動が準備されていると感じました。

学習の題材は、5年生から個人、地域、日本、世界と段階的にし、英語を使う必然性のある場面設定がなされています。

また、これまでの文科省配布教材「We Can!」「Let`s Try!」と構成や紙面デザインが一致しているところが多く、最初の教科書としては教師が指導しやすいのではないかなという印象を持ちました。

教科ということで、4技能の習得を求められています。「東書」は、全体のバランスと単元の学習の流れの中で4技能の習得が考えられて設定されているように思います。3・4年生で外国語が正式に位置付けられ、大田区では多くの学校で、なれる・親しむ外国語活動を1・2年でも行っているという実態から、中学校へつなぐという観点から必要なことと考えます。

また、Small TalkやWord Linkがページ下段に示されており、自学・自習にもつながると考えました。コラム的な内容も充実しています。

「東書」には、別冊としてピクチャーディクショナリーがついていますが、子どもにとって見ただけで楽しく興味深いのではないかと感じました。使える別冊で、辞書を使うことにもつながると思いました。

英語については以上でございます。

## ○教育長

私は、英語は「三省堂」がいいのではないかと思います。

外国語の狙いは、学習指導要領では目標として、英語を実際のコミュニケーションに活用できること、自分の考えや気持ちを伝えること、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと等、コミュニケーションということを重視しております。その意味で、「三省堂」が一日の長があるのではないかと思います。

「三省堂」の5年生の初めには、教室で使う英語、それから友達や先生とのやりとりが示されております。これらは実際の授業の中でたびたび出てくる言葉でありますし、日ごろの授業の中に実際に生かせるということではよいと感じております。

それから、「三省堂」にはSTEPの初めに見開きのPANORAMAというページがございます。様々な人やもの、様子が描かれてとても楽しいものですが、何をしているのか、何があるのか、英語で表現したり、英語で伝えるとしたらどういうことか、コミュニケーションの楽しさや意欲を誘うのではないかと思います。英語に対するコミュニケーションの意欲につながっていくものだと思います。

また、5年生のTRYというところでは、道案内が取り上げられております。真っすぐ二つのブロックを進めとか、ホテルのところを曲がれとか、二つ目の角を右へ曲がれとか、英語で道案内するにはどのようにやっていくのか、具体的にイラストがついて非常にわかりやすく、実際の道を尋ねられたときに役に立つ内容だと思います。

「三省堂」はコミュニケーションの必要性、必然性というところで一日の長があるように思い、また、工夫されているように思います。英語でのコミュニケーションが生かせる授業が展開できるのではないかと思います。

本区では、一つの学級に外国語のALTを年間50時間配置して、ALTとのコミュニケーション能力を図る授業を展開しておりますけれども、実際にネイティブの方とのやりとりを通して英語を身につけるということでは、「三省堂」がいいのではないかと思います。

それでは「東書」「三省堂」が挙がっているところがございますけれども、付け加えはございますか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

○教育長

それでは、東書を推す意見もありましたが、「三省堂」のほうが評価が高かったということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、英語については「三省堂」といたします。

最後の種目になりますが、道徳について審議いたします。道徳の発行者は8者ございます。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。

○弘瀬委員

弘瀬でございます。

道徳は「学校図書」を推薦いたします。

いじめによる悲しい事件が起こり、小学校では2018年から特別の教科として道徳がスタートしております。これは確実に1時間、1時間の授業を適切に実践することを意図しています。1単位時間ごとの文章が長くては終わらないと考えたときに、「学校図書」が掲載している文章は適当な長さと考えました。

また、「学校図書」の「かがやけみらい」の本自体が薄く軽く、文字が大きく読みやすいと評価しております。

「学校図書」は「きづき」と「まなび」の2分冊になっていて、まなびでは、考えよう、やってみようなど書き込み欄には自分の考えと友達の考えを記入するところを設けています。友達の意見を書く欄が少ないように思えますが、ワークシートを貼ることができ、また、自己評価欄もあり、自身でも成長がわかるようになっていると思います。

いじめに向き合う心を育てるための教材の配列に工夫をして、関連教材には手と手をつなぐ、ともに「生きる」のマークをつけてわかりやすくなっております。

5年生のたった一つの宝物では命のとうとさを学び、コラムの「真ん中あたりにいる君たちへ」なども、学習を深める教材となっていると思います。

他教科と社会とをつなげる学びに子どもたちが興味を持つように、イラスト、漫画、グラフ、写真、新聞記事などを使った教材を用意しているところもいいと思いました。

6年生の教材の中に、大田区に住んでいる人物が描かれています。母と娘のそれぞれの愛、そして、「ともに生きる」を教材としたものとしては評価できると考えております。

以上により、「学校図書」を選びました。

○高橋委員

高橋です。

道徳は「学図」を選びました。

「きずき」と「まなび」の2冊になっていて、学習しやすいと思いました。「きずき」ではリード文が、「まなび」では学習をする内容で、自分の考えと友達の考えを記入できます。リード文は読みやすい量になっていて、その後の活動が十分にできると思いました。

「ともに生きる」では、いじめをしないことや周りの人を大切にすることについて考える教材です。いじめに関しては、各学年とも教材が多く時間をかけて学習できます。

大田区の書道家、金澤翔子さんがお母様のことについて触れている文章は身近に感じられてとてもよいと思いました。

剣道を紹介している文では、「人間をつくる道」として、礼に始まり礼に終わる剣道の心を学びます。人として大事なことだと考えます。

巻末の内容項目別教材一覧が領域別に自分自身に関する事、人との関わり、集団や社会との関わりと分けて書かれてあり、指導する際の参考になるのではないかと思います。

以上の点から「学図」を推薦いたします。

#### ○深澤委員

深澤でございます。

私は「学校図書」を推薦します。

道徳では、何かを学ぶということではなく、人との関わりの中で生きていく自分自身の内面を育ててほしいと考えています。

人との関係では、学習指導要領にあるように、思いやりの心を持ってほしいと思いますが、そのためには、人に寄り添える共感できる心を育むことが必要です。学校の道徳の授業で友達と意見を交換し合い、いろいろな考えを聞くことも大切ですが、心を育むのに家庭での教育は大変重要な役割を果たすことから、家に帰ってぜひ振り返りをして、おうちの人と考えを共有していただきたい、そのように考えました。そういう視点から検討したときに、学校図書が分冊になっており、書き込みのできる「まなび」のノートをおうちの方と学校との情報共有のために使用することができるのではないかと思います。

自分自身の振り返りという観点からも、その学年が終わったときにノートをぱらぱらとめくって、過去の自分の内面についての振り返りができるのも分冊のいいところだと思います。

また、授業中にノートを記載する時間が足りなくなってしまう場合には、持ち帰って記載する等、分冊は多様な使い方が期待されます。

次に、教科書の構成についてですが、道徳は教科書の題材を数多くこなせばいいということではなくて、一つの題材にじっくりと取り組み、その題材から自分なりの何かを学ぶ、または自分で気づくことが心の成長に資すると考えますので、題名の横に題材を考えるためのヒントがあり、読み物の後に発問がないシンプルな教材がよいと思いますが、「学校図書」は教科書自体に発問の記載がありません。発問は分冊の「まなび」のノートに記載されています。子どもたちの自由な発想を期待できるのも「学校図書」のいいところだと思います。

教科書の内容についてですが、大田区にゆかりのある金澤翔子さんに関する題材が取り

上げられています。母と子がお互いを大切に思い合っているととてもすてきな関係で、読んでいて私は涙があふれてきました。大田の子どもたちにも、ぜひ読んで共感してほしいと思いました。

次に、集団や社会との関わりに関するのですが、学習指導要領では、法や決まりの意味を理解した上で、進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすことと規定されています。自他の権利を大切にすること、つまり他人に権利のみならず自分の権利を大切にすること、そこが大事だと私は思っております。幾ら他人を思いやりなさいと口で言っても、自分を大切にしていなければ、そして自分が人から大切にされていなければ、人に思いをはせることが難しいのです。

「学校図書」では、「みんなにあたりまえの幸せを」という題材があり、世界人権宣言が制定された背景や意味が説明されています。私も、当たり前の幸せを享受する権利があるのだということを認識してほしいと思います。自分が大切な存在なのだということがわかれば、自分だけではない、友達も大切な存在なのだということに気づくようになる、そのように私は思います。

区民意見でも世界人権宣言が掲載されていることを評価する意見が複数見受けられました。その他、区民意見で道徳に関しては様々なご意見をいただきましたし、私自身も、道徳は子どもたちのこれからの生き方そのものに関わる大切な教科だと思いますので、その点を意識した上で、「学校図書」を推薦するに至ったことを付言いたします。

#### ○後藤委員

後藤でございます。

私は「東京書籍」を推薦いたします。

推薦する理由は、全体的によいと思うことと特徴を述べさせていただきます。

「東京書籍」1年生では、がんばりシールがついておりますが、頑張っていることを友達に教えましょうという視点が、友達と共有するといった点で良いと思います。また、2年生、ありがとうカード、カードを書きましょう、友達に渡しましょう、もらったカードを集めてシートに張りましょう、もらったカードを読んでどんなことを思いましたか、シートに書きましょう、クラスみんなに発表しましょうといった、指示をする言葉には少し問題を感じておりますが、自分のこと、一人のことを考えるということより、友達と共有し、できたことや友達のよいと思うところをカードとして表現するといった2年生の道徳の時間には適している取り組みかなということをおもっております。

また、学習の振り返りでは、よく考えた・楽しくできたという似顔絵がございます。その似顔絵をよく考えたと思ったときには、そちらの似顔絵を塗る、楽しくできたと思ったときには、そちらの似顔絵を塗るといったような方式ですが、この方式も私としては余り推すところではなく、顔の色を塗るということよりも友達、そしてクラス全体で話し合っ、自分の感じたことを表現として振り返ることができるという点をおもっております。

しかしながら、道徳では、やはり教室の中で、この道徳の時間を通して友達と関わり合いながら友達の意見を聞く、また、自分の考えをきちんと話せるという視点が大変重要だと思います。1・2年生と低学年にとりましては、こういったシールやカードといった工夫がなされていることに、道徳としての時間を有効かつ有意義に友達と一緒に過ごしてほ

しいなという願いを込めております。

また、3年生では、「あんぱん」のお話があります。これは木村屋の創業者の方のお話です。ですが、そのお話の中には木村屋とは一切記載はされておられません。児童の中には、このお話を読んだときに、あんぱん、どこのあんぱんかな、誰がつくったのかなと想像を膨らませながら、もしかしたら有名である何度も食べたことのあるであろう木村屋のあんぱんのお話なんだと気づく、そういった気づきの場面のきっかけになることで、こういった教材もよいのかなと感じました。

また、6年生では、重い心臓病を持って生まれた子どもが手術の前にお母さんに書いた手紙の話があります。題名は「お母さんへの手紙」です。この話の中で、私は親子の関係や家族愛、そして、思いやりがやはり想像できるよい教材だと思いました。この子どもは亡くなってしまうのですが、亡くなってしまいましたという記述が一切ございません。やはり道徳で読むものとしては、子どもたちが想像を膨らませ、また気づく、またそのことについて話し合いができるきっかけになることが適しているといった点で、この「お母さんへの手紙」というお話は大変よいお話だなと思っております。

また、情報モラル、安全教育、キャリア教育、食育、いじめ対応、伝統文化教育、国際理解教育についても網羅され、教材のバランスもよいと捉えました。これは全学年においてバランスを確認いたしました。問題なく大変よいかないというふうに思っております。

また、同じく6年では、「タマゾン川」というお話が出てきます。これは多摩川のお話として、なぜ「タマゾン川」という題名なのか、そして多摩川の現状がどうなのかということがこのお話を読むとよくわかる内容となっております。教科書としては、多摩川の写真が大きく掲載されており、また多摩川について日本の川の現状と記されているところから、子どもたちには環境破壊やふだんの過ごし方、また、多摩川に対する気持ち、それからこれまで使ってきた多摩川、そしてこれから使う多摩川といったところで、子ども自身も成長する中で、この「タマゾン川」というお話を知っていることは、とても重要なことだと思っております。このお話の中では、在来種と外来種が200種類を超え確認されているといった内容が出てまいります。子どもたちにとって在来種、外来種ともにどんなふうに見えるのか、それから全く知らなかった子どもたちにとっても、はっきりわかる表現として「東京書籍」のこの「タマゾン川」では、在来種、外来種ともに写真ではっきりと表現をされている点で、やはり視覚的に子どもたちが目にすることが重要と捉えている点から、このような大きな写真を見たり、多摩川について友達と話したり、きっと大田区の子どもたちは多摩川をよく知っている環境に育っていると思っておりますので、このような現状を知ったときに、これから自分たちがどのように多摩川と一緒に過ごしていく等、遊びの場、よく行く場所、としてもどのように多摩川が映るのかなといった期待も含め、「東京書籍」を推薦させていただきます。

### ○三留委員

道徳は「学研」を推薦いたします。

一昨年からはまった特別の教科道徳では、考え議S論することや多面的、多目的に考えることが大切とされています。この観点で各教科書の内容を考察いたしました。

その中で「学研」は、学習活動の多様化が意識され、様々な展開の学習が考えられてい

ると感じました。

平成28年7月の道徳教育に係る評価等のあり方に関する専門家会議の報告にある、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な活動などに関わる内容を発展させ、物事を多面的、多角的に考えるための工夫がなされています。

「学研」の大きな特徴として、資料の題の前に主題名を記載していないことがあります。ほかに学図の教科書も題の前に主題名がありません。主題名が先にあると、子どもに特定の価値観をおしつけることに結びつく懸念があります。教師が望ましいとわかっていることを言わせたり書かせたりする指導にならないようにするためには、必要な配慮と考えました。

また、各学年の冒頭に、道徳教育の四つの視点に沿って学びのポイントが示されています。初めに、1年間の道徳の学びの概観をすることは大切なことと思いました。

「学研」の特色の一つとして、オリンピックやパラリンピックで活躍する人など、スポーツを題材とする資料が各学年で掲載していることがあります。強い意志で粘り強く目的を達成したアスリートの話は、子どもに響くようなものと捉えました。

希望と勇気、努力と強い意志の項目では、各学年でこうした資料を扱った上で、6年の最後の資料に2004年アトランタオリンピックの際のテーマソングとして流されていた「栄光の架け橋」の詩とともに、努力をして夢をかなえたアスリートや文化人を紹介しています。夢に向かって努力することの大切さは、各学年できちんと扱ってほしいと思っています。

また、「学研」は、子どもに投げかける発問例の内容及び量が適切と感じました。例えば、5年あるいは6年のどちらかで、全ての教科書に取り上げられている「手品師」という資料があります。芽のなかなか出ない手品師が、男の子に手品を見せる約束をした後、友人から同じ日の大舞台の出演依頼を持ちかけられるが、それを断り、男の子に手品を見せることを選択するというような話です。各者、たった一人の男の子の前で手品を演じる手品師の気持ち、手品師がきっぱり断ったわけ、誠実な行動とはなどを問うものが多い中、「学研」の教科書では、友人から誘いの電話がかかってきたとき、手品師は心の中でどのようなことを考えたのだろうという手品師の心の葛藤を引き出すような発問となっています。また、その後、自分が手品師だったら、どんなことを大切にしようという、これまで余り見られなかった発問を続けています。多面的、多角的に考えるには、これまでの道徳におけるセオリーのようなものを超えた様々なタイプの問いをしていくことが大切と考えています。

また、「学研」は、生命尊重につながる教材が充実していると感じました。生命尊重の教材では、5年生の「電池が切れるまで」や「母とながめた一番星」、6年生の「折り鶴にこめられた願い」「いのちを見つめて」などが印象に残りました。子どもたちにもぜひ読んでほしい資料だと思いました。

また、近ごろの子どもたちの実態を考えると、いじめ防止や情報モラルに関わる内容も盛り込んでいく必要があると思っています。この点でも、「学研」はすぐれた教材を用意していると感じました。

以上でございます。



## ○教育長

それでは、私は、特別の教科道徳は「学図」がいいのではないかと思いました。

道徳の学習は、先ほどからお話が出ていますように、物事を多面的、多角的に考えて、道徳的な価値、生き方について考える学習でございますけれども、子どもたちが自分たちの経験、考えをたくさん出し合って、改めて気づいたり、考えが変わったりすることが大切であると思います。考え、議論する道徳というところだと思います。

そのような道徳の授業をするには、大切だと思うのは、やはり教材が子どもたちの心に働きかけて、子どもたちの心を揺さぶると申しましょうか、様々な考えが引き出せる教材であることが大切だと思います。

また、発問ということで、子どもたちの実態、それから教材の価値に触れて精選された発問をすることが大切だと思います。

1時間の中で教材を読み取って、自分の考えを持って、十分に考えを出し合って、また考えが深まったなどと振り返るには、発問は一つに絞るぐらい、なるべく少ないほうがいいのと思っています。

そのような観点で、道徳の教科書を見たときに、「学図」がいいのではないかなと思いました。

先ほど、金澤翔子さん、大田区の出身のダウン症の書家のお話が出ましたけれども、その他にも5年生には、大田区と災害時の相互応援協定を結んでいる東松島市の東日本大震災のときに乗客の命を守った鉄道員の話が載っております。それから、「さわってごらん、ぼくの顔」ということで、海綿状血管腫の藤井輝明さんのお話も載っています。

このように「学図」には、比較的現在の社会的な課題を取り上げた教材が簡潔な文章で記載されていて、子どもたちが議論し、考えを深める学習には資するものが多いと思います。

また、発問という点では、先ほど深澤委員から出ましたように、「学図」は教科書の本文に発問例は載っておりません。私は、発問を考えるということは、教師が教材をしっかり読んで、子どもの実態を踏まえ、どういう狙いのもと、精選し考えるものであると思います。発問にこそ道徳の学習の成果がかかっていると言われるぐらいでないかと思います。

道徳の授業が型にはまったものになるのではなく、道徳という価値について広く、深く考えるようになるためには、教師自身が子どもと一緒に道徳について考えていくということも大切だと思っております。それにはまずは教師が、発問をしっかりと考えて、本文に対する多様な理解や考えが生かせるような授業をしていくことが大切であると思います。

以上のような理由で、「学図」に一日の長があると思っております。

道徳につきましては3者推す声がありますが、ほかに付け足すことはありませんでしょうか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

## ○教育長

それでは、道徳につきましては、「東京書籍」、それから「学研」を推す声もございま

したが、「学図」が一番評価が高いということでまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、道德につきましては、「学図」といたします。  
以上で、令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択の審議を終了いたします。  
続いて、日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第2は「令和2年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」でございます。

○教育長

それでは、令和2年度使用中学校教科用図書採択の審議を行います。  
第7回定例会におきまして、指導課長から令和2年度使用中学校教科用図書の採択に係る調査報告を受けたとおり、今回の採択の対象になっている教科書は、前回の採択時から新たに文部科学省の検定を経た教科書はございません。調査委員会の報告も前回のものを使用しております。  
令和3年度には、新しい学習指導要領に基づく教育課程が中学校でも全面実施されます。したがって、1年後には大きく教科書が変わるということを踏まえ、審議を進めたいと思います。  
現在使用している教科書につきましては、今回、新たに聴取した学校意見、区民意見も踏まえて審議を進めていきたいと思いますが、それでよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、審議を始めます。  
ほとんどの学校が、現在使用している教科書によい、または特に問題がないと肯定的な意見を挙げております。また、現在使用している教科書は、全ての教科において肯定的な意見が否定的な意見を大きく上回っております。また、他者の教科書と比べても、現行のものを評価するものが増えております。加えて、区民意見でも、現行の教科書の継続使用を否定するまでの意見はほとんどなかったと思われまます。  
このことから、私は、現在使用している教科書への評価は高いと考えておりますが、皆様のご意見はいかがでございましょうか。

○三留委員

三留でございます。  
中学校において、令和2年度は、新学習指導要領による教育課程実施のための移行期間、準備期間となります。新学習指導要領では、カリキュラムマネジメント、主体的・対

話的で深い学び、開かれた教育課程などの様々な取り組みが求められているところであり  
ます。もし、現在使用している教科書と違う教科書を採択した場合、新しい教育課程の準備  
以外に令和2年度だけに使う教科書のために、指導計画や評価規準、新たな教材をつくる  
などの対応を学校はしなくてはなりません。

中学校教科書については、来年度新たに新学習指導要領に基づいた教科書採択がありま  
す。今回は、教科書検定、採択の周期の関係で、現行学習指導要領による令和2年度の1  
年間だけ使用する教科書の採択になります。全体的に、区民意見、学校意見で継続使用を  
否定するまでの意見がほとんど見られない状況があるということで、私も、これまで積み  
上げてきた指導実績や学校の状況、負担等を考えて、前回採択した平成28年度から採用し  
ている教科書を引き続き採択したほうがよいと考えます。

○教育長

ほかにご意見はございますでしょうか。

(「なし」との声あり)

○教育長

それでは、皆さんは、現在使用している教科書に特に大きな問題はないというふうに捉  
えてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、審議のまとめを行います。

令和2年度使用中学校教科用図書採択にあたっては、令和3年度より全面実施される新  
しい学習指導要領による教育課程への円滑な移行を踏まえ、また、使用開始から4年目と  
なる現在の教科書に対する学校意見・区民意見も踏まえ、現在使用している教科書を継続  
して使用していくとまとめてよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、令和2年度使用中学校教科用図書につきましては、現在使用している教科書  
を継続して使用することといたします。

では、ここで約15分間、4時25分まで休憩をとります。

( 休 憩 )

○教育長

それでは再開いたします。

日程第3について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第3は「議案審議」でございます。議案を読み上げます。

第26号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく令和2年度使用特別支援学級教科用図書採択についてです。

なお、昨日からの教科用図書採択の審議を受けて、議案の追加提出がありました。

第27号議案 令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択について、第28号議案 令和2年度使用大田区立中学校教科用図書採択についてです。

○教育長

それでは、審議に入ります。

昨日の第8回定例会と本日の臨時会の2日間で審議いただきました小学校教科用図書採択に関する追加議案第27号議案から審議したいと思います。

では、第27号議案について、事務局から説明をお願いいたします。

○教育総務課長

第27号議案 令和2年度使用大田区立小学校教科用図書採択についてご説明申し上げます。

令和2年度使用大田区立小学校教科用図書につきましては、7月23日の第7回教育委員会定例会において教科用図書調査委員会委員長及び副委員長から調査報告をいただき、昨日の第8回定例会と本日の2日間にわたり、ご審議をいただきました。

ここで本案を議案として提出し、令和2年度使用大田区立小学校教科用図書の採択をお願いしたく存じます。

小学校教科用図書の一覧を読み上げさせていただきます。

国語、光村図書出版「国語」。書写、光村図書出版「書写」。社会、東京書籍「新しい社会」。地図、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」。算数、東京書籍「新しい算数」。理科、大日本図書「たのしい理科」。生活、啓林館「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」。音楽、教育芸術社「小学生の音楽」。図画工作、日本文教出版「図画工作」。家庭、開隆堂出版「小学校 わたしたちの家庭科」。保健、学研教育みらい「みんなの保健」。英語、三省堂「CROWN Jr.」。特別の教科道徳、学校図書「かがやけ みらい 小学校道徳」。

以上でございます。

○教育長

令和2年度使用大田区立小学校教科用図書について、ご意見はございますでしょうか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第27号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第27号議案については、原案どおり決定いたします。

続いて、第28号議案について、事務局職員に説明を求めます。

○教育総務課長

第28号議案 令和2年度使用大田区立中学校教科用図書採択についてご説明申し上げます。

令和2年度使用大田区立中学校教科用図書につきましては、7月23日の第7回教育委員会定例会におきまして、指導課長から調査報告があり、本日の定例会でご審議をいただきました。

ここで本案を議案として提出し、令和2年度使用大田区立中学校教科用図書の採択をお願いしたく存じます。

令和2年度使用大田区立中学校教科用図書につきましては、これから読み上げさせていただきます。

国語、光村図書出版「国語」。書写、学校図書「中学校 書写」。社会・地理、帝国書院「社会科 中学校の地理」。社会・歴史、東京書籍「新編 新しい社会 歴史」。社会・公民、東京書籍「新編 新しい社会 公民」。地図、帝国書院「中学校社会科地図」。数学、東京書籍「新編 新しい数学」。理科、東京書籍「新編 新しい科学」。音楽・一般、教育芸術社「中学生の音楽」。音楽・器楽、教育芸術社「中学生の器楽」。美術、日本文教出版「美術」。保健体育、大修館書店「保健体育」。技術家庭・技術分野、開隆堂出版「技術・家庭（技術分野）」。家庭分野、開隆堂出版「技術・家庭（家庭分野）」。英語、学校図書「TOTAL ENGLISH」。特別の教科道徳、日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」。

以上でございます。

○教育長

それでは、ただいまの報告に対してご意見、ご質問はありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、第28号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

第28号議案について、原案どおり決定いたします。

次に、第26号議案について、事務局職員に説明を求めます。

○教育総務課長

第26号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく令和2年度使用特別支援学級教科用図書採択についてご説明申し上げます。

大田区教科用図書採択要綱第14条には、区立学校に設置されている特別支援学級で使用する教科用図書については、区立学校の通常の学級で使用する教科用図書を使用する。2項、前項の規定にかかわらず、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を使用する必要があると教育長が認めた場合は、特別支援学級設置校の校長会が審議し、適切と考える教科用図書を教育委員会へ報告するとございます。

なお、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択期間については、児童・生徒の実態に、より一層対応した教科用図書を選定するために、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条の規定から除外されており、4年間によらず採択しているものでございます。

教科用図書の選定につきましては、指導課長から説明をさせていただきます。

○指導課長

特別支援学級で使用する教科用図書の選定について説明いたします。

各設置校の児童・生徒の障害の種類・程度、能力・特性に最もふさわしい内容、文字、表現、挿絵、取り扱う題材であること、可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つこと、特定の教材もしくは一部の分野しか取り扱っていない図書、参考書類的図鑑類、問題集等は除くといった観点のもと、特別支援学級設置校の校長会が、東京都教育委員会の特別支援教育教科書調査研究資料、各設置校の意見を踏まえた上で、適切と考える教科用図書として選定いたしました。

選定された図書の一覧は別紙のとおりです。ご覧ください。

○教育長

それでは、学校教育法附則第9条の規定に基づく特別支援学級使用教科用図書についての意見はございますでしょうか。よろしいですか。

(「はい」との声あり)

○教育長

それでは、第26号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

第26号議案について、原案どおり決定いたします。

これをもちまして、令和元年第1回教育委員会臨時会を閉会いたします。

(午後4時35分閉会)